

内外交差点

「予約でおトク、ラクちん。」へ “もったいない”をなくす挑戦は続く

高原 幸一郎氏 (NearMe代表) 第8/12回

当社は10月28日、「NearMe 事業戦略発表会——2030年移動課題に向けた道筋——」を開催しました。当日は、国交省、自治体、企業、海外パートナーの皆さまにもお集まりいただき、地域・観光モビリティの未来像を共有する機会となりました。

当社は創業以来、「暮らしの“もったいない”をなくし、“次のあたりまえ”をつくる。」というミッションを掲げ、この理念のもと、主力サービス「エアポートシャトル」を中心に、全国で地域課題に応じた移動支援を展開してきました。そしてこのたび、ブランドメッセージを「シェア乗りで移動をもっと快適に」から「予約でおトク、ラクちん。」に刷新しました。一見すると新しい言葉のようですが、実際には創業当初の考え方——事前予約を通じてシェアを生み出し、移動をなめらかにするという“原点”に立ち返ったものです。「おトク」とは単なる価格だけではなく、移動の確実さ、時間の有効活用、そして安心感を含めた総合的な価値を意味しています。独自AIによるマッチングと車両稼働の最適化を進化させ、単なる配車アプリではなく、toCへの移動価値向上はもちろん、toB、toGに対して地域の移動課題を解決するITモビリティパートナーとしての立ち位置を強めます。また、アプリのUIも一新しました。新ブランドを体現するデザインと操作性を備え、利用エリアやシチュエーションに応じた提案を行い、より直感的に「予約でおトク、ラクちん。」を実感できる設計としています。また、インバウンド需要の拡大を受け、課題解決へB to B to C展開も加速しています。ホテルや旅館のフロント・コンシェルジュ業務を支援し、ゲストの利便性と宿泊施設の業務DXを両立させます。たとえば、リムジンバスでは対応しにくい深夜・早朝の空港アクセスを補完し、ホテルを停留所として設定することで、移動の選択肢を広げていきます。

NearMe Brand Update 「シェア乗り」で構築した仕組みを発展させ、より多くの選択肢を増やす



“旅マエ”の段階では、宿泊施設や旅行代理店がゲストに空港～ホテル間の移動手段を案内することで、旅行者の安心や満足度を高めます。さらに“旅ナカ”では、滞在中にフロントやコンシェルジュから当社のエアポートシャトルを紹介することで、出発までの移動をスムーズにサポートします。また、ホテル・旅行代理店（ランドオペレーターを含む）との連携も強化しています。これまで個社ごとに行っていた見積もり・配車・請求といった煩雑なオペレーションを当社の予約システムで一元管理。全国100社以上の運行会社と連携し、旅行業界における「手配DX」を支援しています。インバウンド顧客に対しては、空港送迎（シェア乗り・貸切定額）だけでなく、市内移動や1日観光、都度移動など、旅のあらゆる場面に応じた移動サービスを提供しています。訪日旅行のお供として選ばれる世界観を目指します。また春秋航空との連携も発表。具体的には先方のアプリ等を介し、航空券を手配したタイミングでの空港送迎の手配等、主には中国人観光客の訪日UX向上はもちろんのこと、昨今問題となっている白タク問題への啓蒙も兼ねて、さらなるパートナーシップの展開を実施していきます。

こうした取り組みの背景にあるのは、「地域の足と観光の足を有機的に結びつける」ことです。移動の断絶をなくし、交通全体をひとつの“仕組み”として最適化すること。これが、私たちが描く「集約と協業」の姿です。人口減少やドライバー不足といった構造的課題を前に、単独で完結する交通モデルには限界があります。ITを活かし、地域事業者や宿泊施設、旅行会社と連携することで、持続可能な移動の仕組みを共に作り上げていきたいと考えています。

当社はこれからも、移動の“もったいない”をなくし、誰もが自由に移動できる社会を実現するため、「予約でおトク、ラクちん。」という新しいメッセージの下、まずは2030年に向け挑戦を続けます。

NearMe Brand Update toCだけでなく、toB/toG向けサービスにも展開

